
結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
8
Presented by
めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
8
めいびい

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

8

Contents

Presented by
MAYBE


はぁ…
はぁ…
少しずつ…
手応えは感じて来てるんだけどな……
ふぅ…
今日はこんくらいで帰るか
スタ スタ
……ふ～ん
はっ
あたしも早く帰らなきゃ！
急いで先回り!!
ひょいっ


ガチャ…
おかえりなさい
第41話


あなた♥



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


いろんな食材があって良かったね！
干した魚を戻して煮たんだけどけっこう上手に出来てない？
ホカ
ホカ
新鮮なお野菜があればもっと良かったんですけどね…
大書庫に閉じ込められてはや1週間
うま…
脱出の手段は見つからず俺たちは…
長老の研究室で暮らしはじめていた


パタ
パタ
ザッ
ザッ
どれ
わらわが
味見して
やろう


パン
パンッ
よし…っと
ここだと生乾きっぽくなるのがなー…
しょうがないんじゃない？いちおう室内なんだし


どうした？
ぼーっとしちゃってさ……
ん…
サトウと暮らすとこんな感じなのかな…って
なんか
ホントに新婚さんみたいじゃない？


みたいじゃなくて…
そうなんだけどな……
カァー…
そうでした…
あ!明日の献立考えとかなきゃね!
干したお肉かお野菜どっちがいい?
あせ
あせ
そうだなぁ~!俺は……
はっ
……サトウ?
みんな聞いてくれ…


俺たちは完全にここの生活に順応してしまった！
こんなのんきに過ごしている場合じゃない‼
世界に危機が迫っているのに‼！
おぉなんじゃ覚えておったのか指輪王
でもお兄さん
扉は開かないし今はどうしようもないよ
みんなは日中何して過ごしてるの？
あの封印を破るにはぜんっぜん力が足りないみたいだし
ネフリティスは…
本を読みにいってるんだよね？


はい
大書庫にはたくさんのご本があるので…
チラッ
あと…
わたしは日課のトレーニングだ
アンバルは扉の魔法の分析をしている
今の計算だとあと600日で扉に施された魔力の解析が終わる
え……長くない?
アンバルはあまりこういうのは得意ではない
…は?妾がなんぞせねばならんのか?
指輪王が努力すればそれで良かろう
お前本当に何もしてないんだな……


指輪王の力は
お姫様との
絆の力……
力が足りないのは
お兄さんへの想いが
不足してる
からじゃない？
つまりこの中に
本気でないヤツが
おるということか…
サトウと
一線を越えることを
恐れておるヤツが!!
…それは
お前じゃ
ないのか？
サフィール…
サトウは
そもそも
妾のカラダには
興味無いからの～？
なればこそ
妾とサトウとの間には
強固で清い信頼関係が
築かれておるのじゃ
のう？
サトウ
あ…？
ああ…
グラナートこそ
最近
自信なさげなのじゃ!!
ニカッ!?
それなら
わたしはずっと
自信ないです…


ネフリティスは気にすること無いぞ
そこの無能なんぞさっきから黙って座っとるだけじゃ
そこなアンバルは本当にサトウを愛しておるのか？
機械に愛がわかるのか？


アンバルはそのような屁理屈は嫌い
逆に問いたいここにいるみんなは愛の定義を語れる？
なっ!?
はぁぁ…
こうなってはやはり安易な手段に走るべきだな
意識を高めるとか努力するとかよりそのほうが手っ取り早い
だからそれはダメだって！
前の指輪王の二の舞になるって！
そこはほら…サトウを信じてるから…
それ信じてるんじゃなくて俺に自制を強要しているだけじゃないのか!?
とにもかくにも
各自出来ることを毎日コツコツ積み重ねれば良いのじゃ
う～む…
全く何もしないお前がそれを言うのか……
妾は力不足など感じておらんからの


ハァ…
ハァ…


少しは長く……
指輪を使えるようになってきたか…？
集中したいから……
ひとりが良いんだけど…
なかなか鋭いですね
お兄さん



意図的に魔力切れを起こして回復時の増大を狙う
基礎的なことだけど大事な訓練だよね
じいさんが教えてくれてたんだ
魔力は裏切らない…鍛練あるのみじゃ
…ってさ
自分に出来ることがあるなら
やっておきたいだろ
お兄さんって…女の子にあんまり興味無いの？
ブフーッ


どうして手を出さないのかなって
男の人ってみんなそういうの好きなんじゃないの？
俺は俺のエロのためにヒメを傷つけたくない!!!
そういうことじゃなくって〜…
力が手に入るんだよ？
願ったり叶ったりじゃん



そりゃあ…
必要なのはわかってる
力は欲しいさ
でも納得出来ない方法で手に入れた力だと
その後のことも全部納得いかなくなりそうでさ
…なんか
俺がいちばん状況わかってないのかもしれないな
……そう？
わりと良いと思うけどね
そういうの


お兄さんって
案外あたしと似た者同士かもしれないね
…ん?
そうか……?
そうやって…地道に頑張ったり出来るところ


ちゅっ♡



ばっ
アレは催淫の霧にあてられてただけだから!!
ノーカン!ノーカン!
くん
お兄さん頑張って!
あたし応援するから!!
もも…もちろんお姉ちゃんのことも!!
ふ~…
あー…
…あれ?
でもあの霧って…欲望を暴走させるだけで操作したりまではしないから……
あたしの本心はまんざらでも無いってヤツ!?


いや…うん
あのさ…正直あの避妊の魔法は助かったよ…
俺もそろそろ…って思ってたから
にまぁ
やっぱりお姉ちゃんとはしたいんだ~☆
お兄さんのスケベー♡
はっ
えへへ♡
この際だから言っちゃおっかな~


あの避妊効果の魔法の紋様
未完成だって言ったら怒っちゃう?
な…
なんてことを——!!!

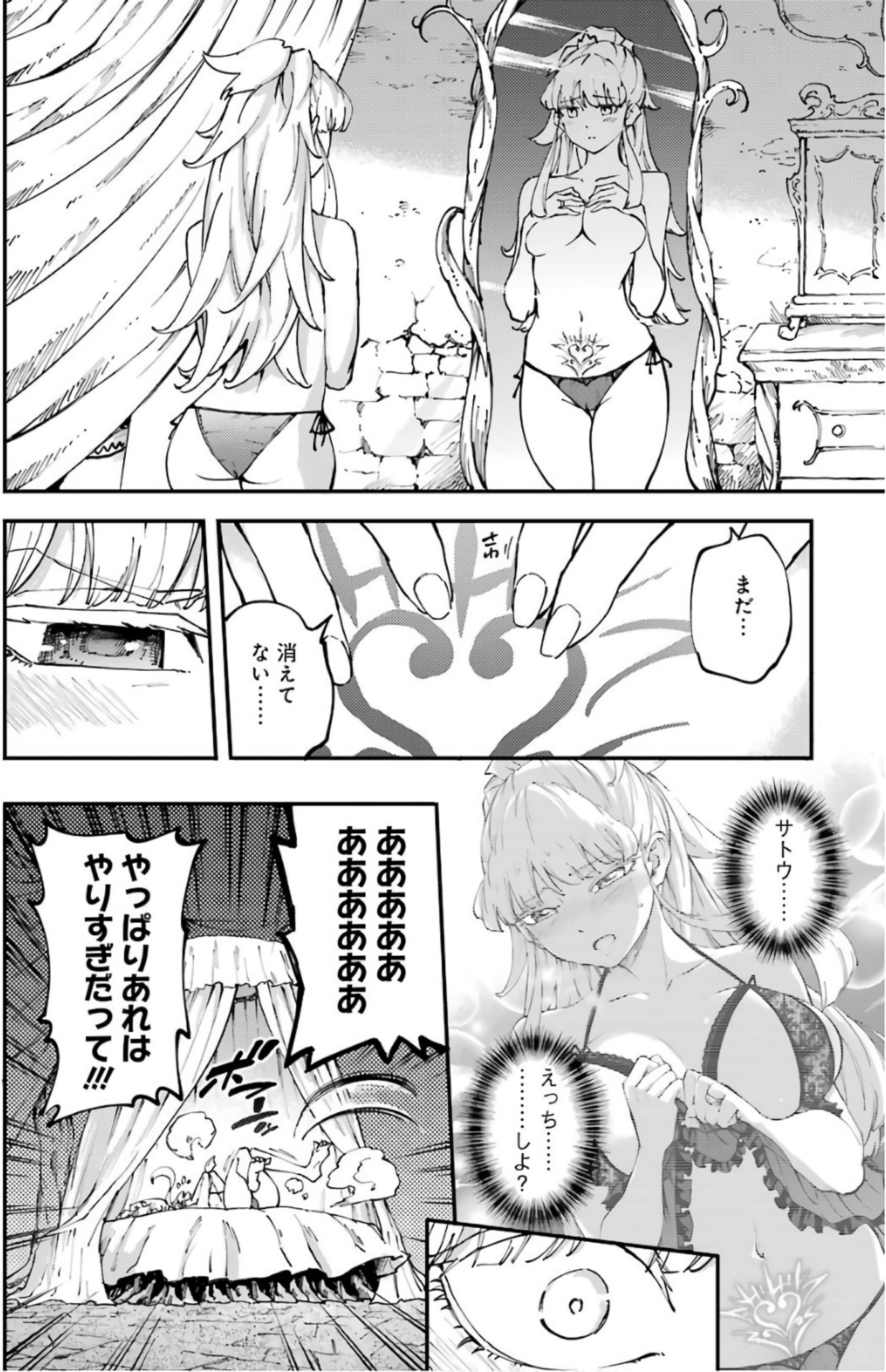

精度を上げるにはもっと研究が必要だね!!
どーやって?
…え?

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS

第42話




まだ…
消えてない……
サトウ……
えっち…… ……しよ?
ああああああああああ
やっぱりあれはやりすぎだって!!!


避妊するってことは
子供を作る目的じゃ
無いってことで…
つまりサトウに
えっちしたいだけって
思われたってことで!!
ゴロ
ゴロ
うあああああ
ああああああ!!!
ゴロン
でも……
頑張らないと
このままここから
出られないって
なったら
いずれは——
いつまでも
サトウの優しさに
甘えてちゃ……
いけない
よね


サトウだって
我慢してる…はずだし
…それに
わたしだって……
帰ったぞー


はぁー
お疲れさま
サトウ
今日も扉の所に
行ってたの？
ああ…
相変わらず
ぜんっぜん
ダメだったけど
そう
なんだ…


…??
今日も……
いっぱい頑張ったんだ……
だったら今日はもう…疲れちゃったかな


ねぇ
サトウ
一緒にお風呂
入らない？
えっ⁉
はだかの
お付き合い……
すれば……その
またいっぱい
元気になると
思うし……
…？
サトウ…？


…ごめん
ヒメ
今
そういうのは
ちょっと……
!!?
なんで!?
ヌタ
ヌタ
ヌタ
すまん……
ひとりにして
くれないか
ズゥ――……
サトウが……



サトウがわたしに愛想尽かした!!
アハハハハハハハ!!!
何がおかしいの!?
おっかしー
あははは…ごめんごめん…
実はさぁ……
未完成!?
避妊の効果が未完成ってどういうことなの!?


あの魔法の紋様はねぇ長老さんの研究の成果なんだけど…
成功するのは7割くらいで完璧にはほど遠いんだよね
まだまだお試し中だったってこと
だいたい そんな都合のいいモノだったらとっくに世界中に広まってるはずだしね〜
騙したな!! なんてことを…!!
あーでもしないといつまで経っても進展しないじゃん
あたしがやらしーお姉ちゃんのために頑張って完成させるから許して
ぐぬぬ…
ちょっと待って……
その成功するの7割くらいってどうやって確かめたんだろ……?
はっ
え…?
そんなの実際試してみるしか…
!!
そ…そんなわけないよね……?
ど……どうなんだろ? あの長老さんだし……
何やっとるのじゃ……
会話の内容がアホすぎてついて行けん……
なんか怖くなってきた……


クリストルよ…妾思ったんじゃがの
指輪王の力が足りぬのはおぬしが原因では？
……え？
前から気になっとったんじゃが
おぬしには正妻としての余裕が全く感じられん
妻であるおぬしがしっかりしておらんと指輪王も立つ瀬が無かろう？


指輪王はもはやおぬしのためだけにここにおるのではない
それだのにおぬしは指輪王だけでなく
妾たちのことも信じることが出来ておらんのではないか？
もう旅をはじめてしばらくの付き合いになるのじゃ
妾たちのことも少しは信用してくれてもよかろ？
そんな…
信用してないなんてこと…
ガチャ


…ただいま
なんかすっきりした顔をしとるの…
そういえばグラナートとネフリティスがおらんがどこ行ったんじゃ？
まだ帰ってないのか？最近ふたりで何かしてるみたいだけど…
め…めずらしい組み合わせだね~
指輪王話しておくことがある
ビクッ
急になんじゃ!?
扉の魔力の解析を行っているときに
不自然な魔力の流れを見つけた
？


大書庫は内壁全体にも強化の魔法がかかっている
扉と同じ強化の魔法
ここより下層にその魔力の歪みを感知した
それって…壁に穴が開いてるってことか!?
わからない
確かなのは異変が存在していることだけ
なんにせよ調べて見る価値はありそうなのじゃ
妾はいい加減ここに飽きた
よっこいしょっと
ついにサフィールが重い腰を上げた!?
妾は無駄な行動を好まんだけじゃ
夕飯まで時間もある
グラナートたちも下にいるなら会えるじゃろ


ボウッ




すごいな…
もうそんなに出来るようになったのか
キーやっ♡
ぼっ


ありがとう…ございます


すごいな
ネフリティスは
この間まで
何も出来ないと
言っていたのが
嘘のようだ
どうですか？
グラナート様は
…………
毎日続けてみて
魔力の感覚
掴めそうですか？
ああ…
何か……
感じるものは
あるんだが
……こう……
掴みどころの
無いものは
どうも……
むむむむ……
あのとき
わたしは
確かに感じたんだ
サトウに
触れられたときに
今まで感じた
ことのない感覚
あの身体の奥から
沸き上がる
熱い感覚……
あれがまさしく
そうであるならば……


大丈夫です
グラナート様の中に
魔力の流れが
生まれているのは
確かに感じます


古い書物によると猫人の魔力は他種族とは違う形で現れることが多いそうです
それゆえ気付きにくいだけで誰もが持っている力なのだと…
ご本の通りであればきっと大丈夫です
何かきっかけさえあればグラナート様にも指輪の魔法は使えます！
頼もしいなネフリティスが古い文字を読めて助かった
すべてはネフリティスのおかげだ
そんなわたしはお手伝いをしているだけで……
いいや立派に誇れることだ
わたしはご本を読むのが好きなだけで
意識して知識を身につけたわけではないですし……
だから鍛練の仕方や心構えはわかりませんでした
こうして風を操れるようになったのもグラナート様のおかげです
すずしい


しかし
こういうのは
面白いな
長らく
忘れていた
？
よく普段から
鍛錬されて
いたように
思うのですが…
あれは
自分が出来ることの
研鑽ばかりだ
はじめて
剣を握った
日のことを
思い出す
出来ないことを
始めたあの日を
わたしに
剣を教えて
くれたのは……
母だった……
お母様が
ですか…？
ネフリティスは
強いな
聞いたぞ
父母の石化した像を
指輪のために
打ち壊した
そうじゃないか
あれは…
二度と戻らない
ものでしたから
それに
今だから
わかるのですが
ずっと
わたしの
枷になっても
いたのです


枷……か
わたしの母は
ただの証だった
父が猫人の王たることを示す
ただの証の品


母も王家のしきたりに従い見合いをしたのだ
並の猫人ではかなわぬ立派な戦士だったと聞いている
父に敗れた母は二度と剣を手に取ることはなく
わたしを育てるためだけに生きていた
だが母は……
ただ育てるためだけにな……
しかしわたしが大きくなる前に
母はわたしを捨ててどこかへ行ってしまった
父はそれを悲しむ様子もなかった
あの人が本当に欲しかったのは指輪と玉座だけだったのだろう
母は価値のないその付属物でしかなかったのさ


そんなこと……
わたしは母のようにはなりたくないのだ
自分の足で立ち自分で選び取り自分で生きていきたい…
抜け殻にはなりたくない
そのためには誰よりも強くなくてはならない――
妙な話をしてしまった
なぜかネフリティスの前だと気軽に話せてしまうな…
不思議だ


さっきの話は忘れてくれ
こんなことを人に話したことは今までなかった
きっと慣れないことをして疲れているんだろう
…いいえそっとしまっておきます
わたしがそのお話を知っていること覚えておいてくださいね
…？
妙なことを言う
ふふっ


では そろそろ 戻るとするか… 夕飯の時間だしな
今日の お夕飯は なんでしょう？ 楽しみですね
ツッ…
ポトッ
ネフリティス 肩の上に 虫が……
ええっ!?
ぴょーん
アーッ


ヴワァッ
…ん？
黒い霧になって消えた……
まさかこれは
深淵のモノか…!?
大書庫は全体が強い魔力で守られています…
外から深淵の魔物が入り込むなんて
タタタタタ
!!


グラナート様！
これを見てください
これは……
このシミのようなものがここから大量に溢れ出しているのか？


仮に深淵の魔物だとしても
この程度の大きさであれば問題はあるまいが…
でも……心配です


ああ
サトウたちには
念のため
伝えておこう
小さな虫の魔物か……
しかしさっきの
ネフリティスの肩の上に
いたものは
もう少し大きかった
気がするんだが……
まさか——



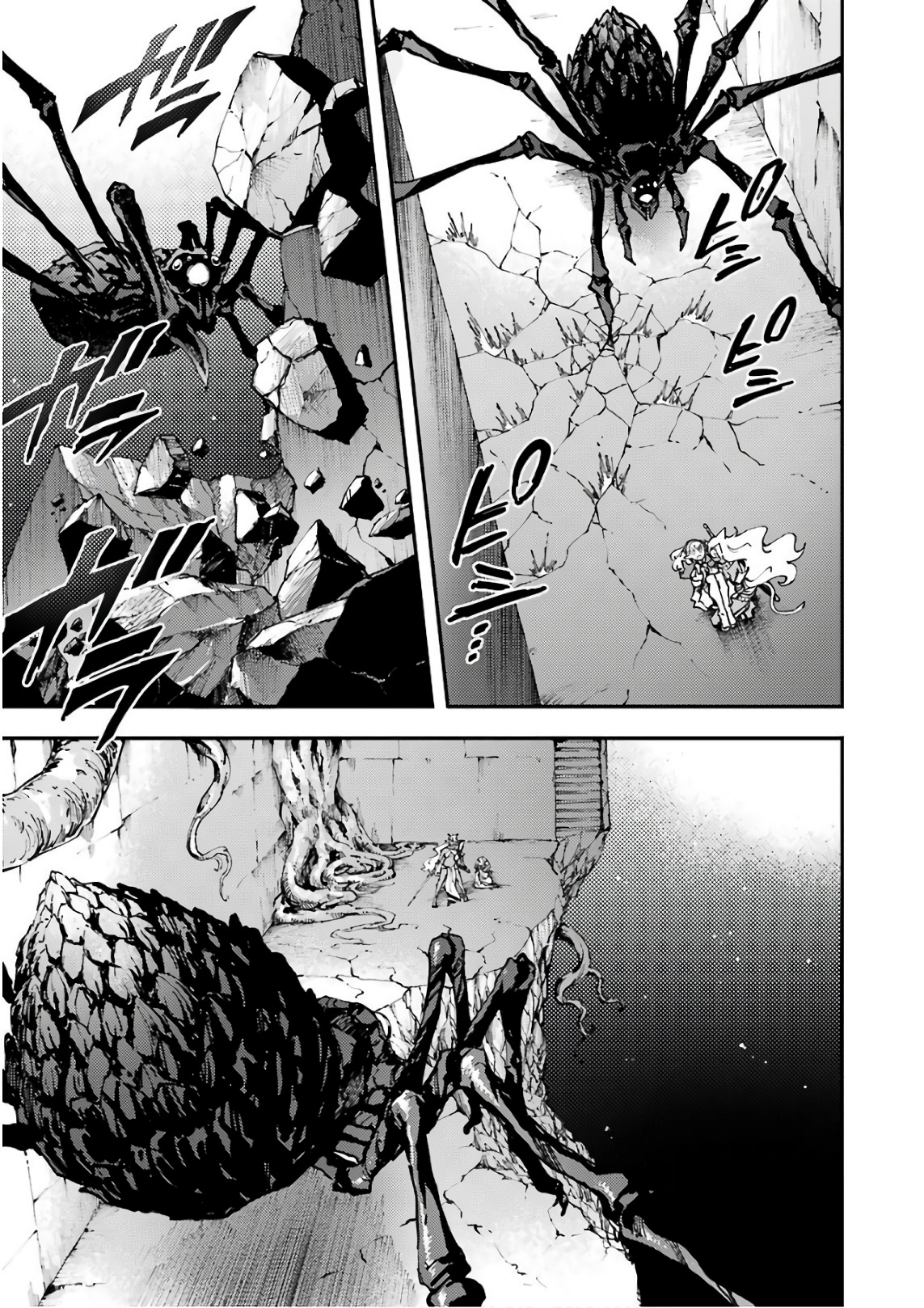

なんか…
もんもん
めっちゃイイ
匂いがする

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第43話
深淵の…
魔物⁉


こんな巨大なもの……
書庫の中にどうやって侵入したんだ？

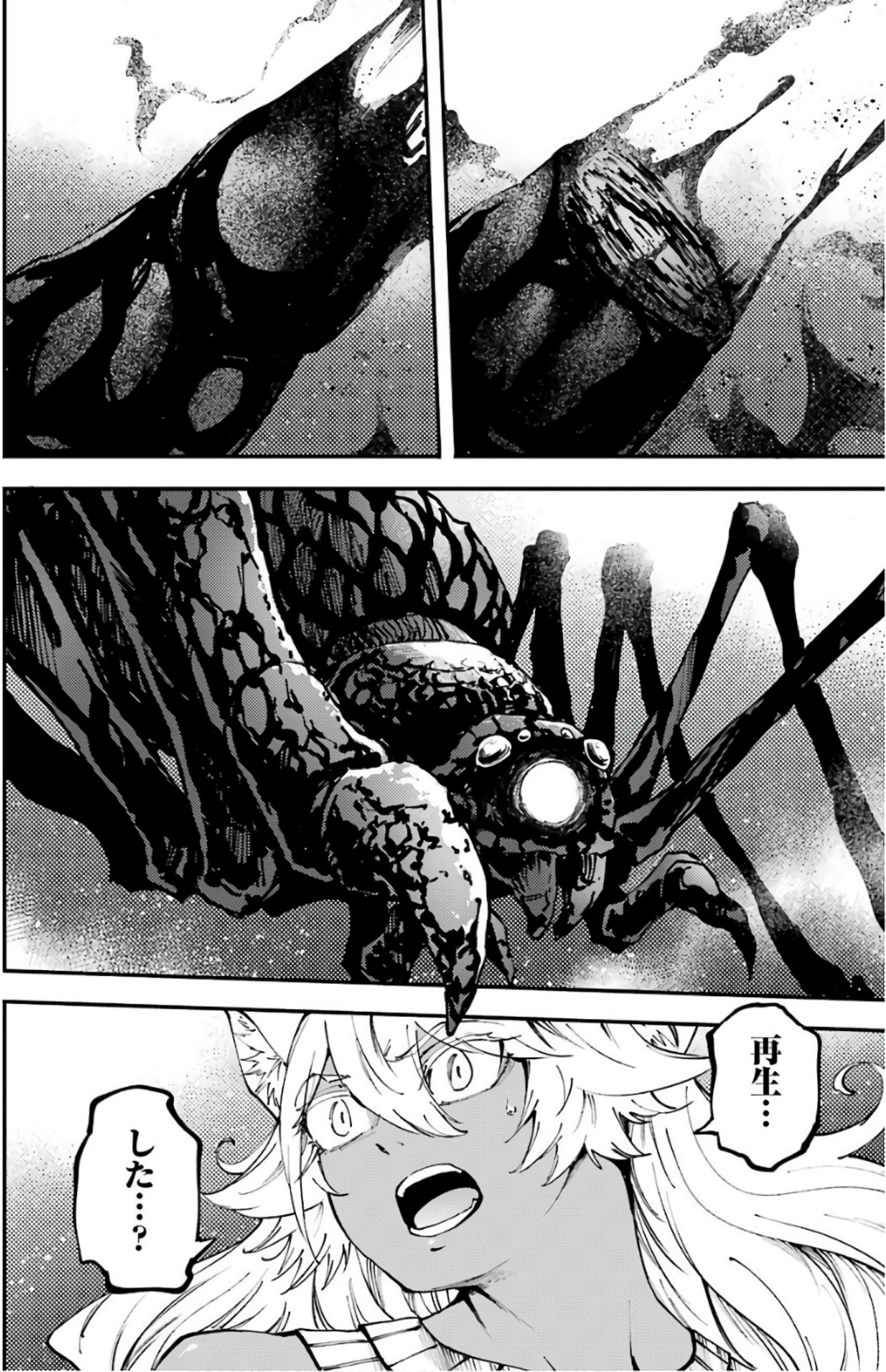

ピシ
ピシ
ピシ…
ズン
ガラ
ガラ


簡単には…逃がしてくれそうにないな
ネフリティス ここはわたしが相手をする
隙を見てサトウたちに知らせに行ってくれ
いいえ
わたしも一緒に戦います
気付いていますか？
なに⁉
周りに糸が……

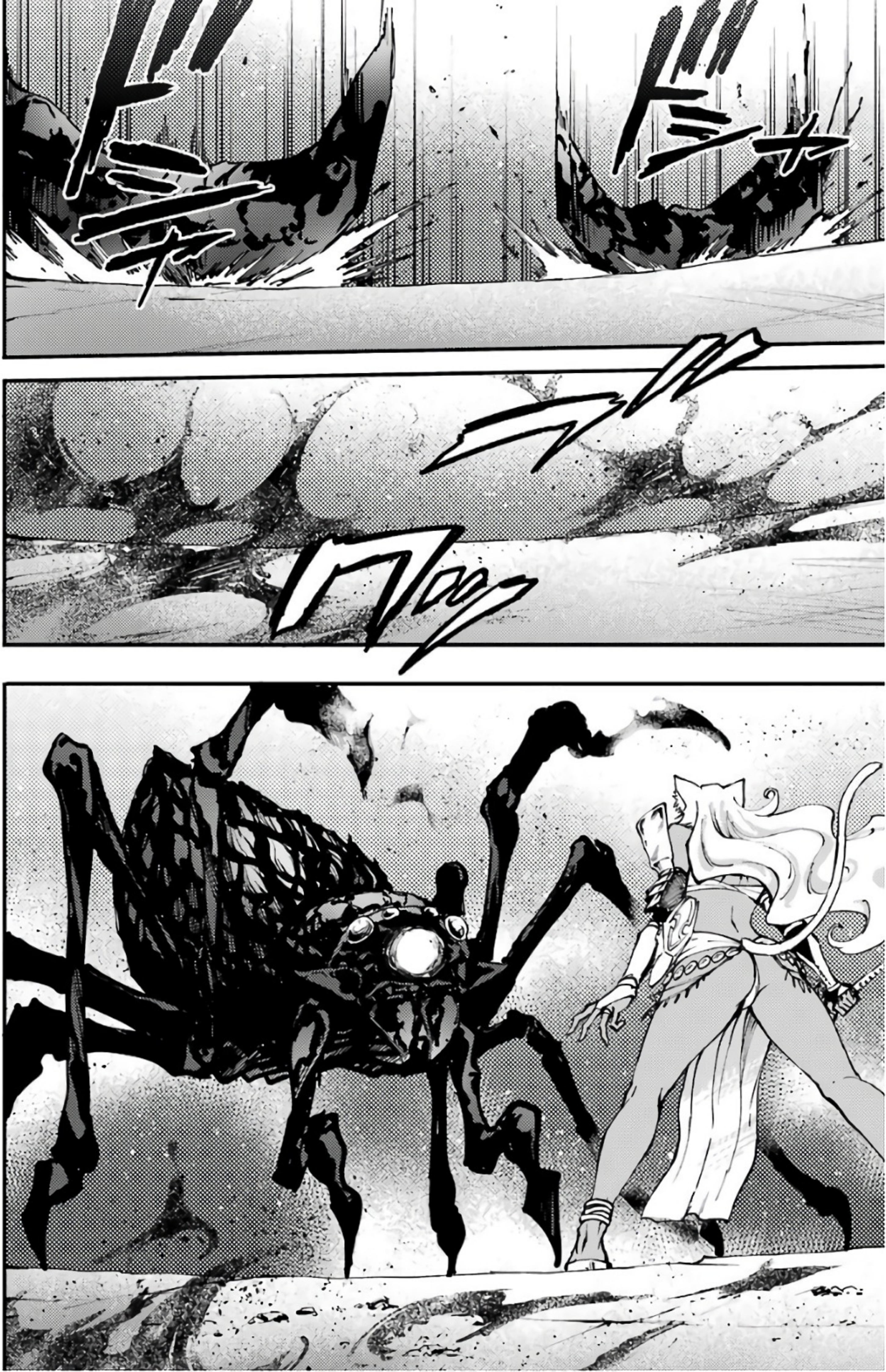

よく
気付いたな……
風が……
わたしに教えて
くれたんです
わたしには
全く……
迂闊に
逃げようとすれば
身動きが取れなく
なるわけだな
出来る限りですが
お手伝いします
糸くらいなら
吹き飛ばせると
思うので
承知した
頼りにしているぞ！


えいっ!!

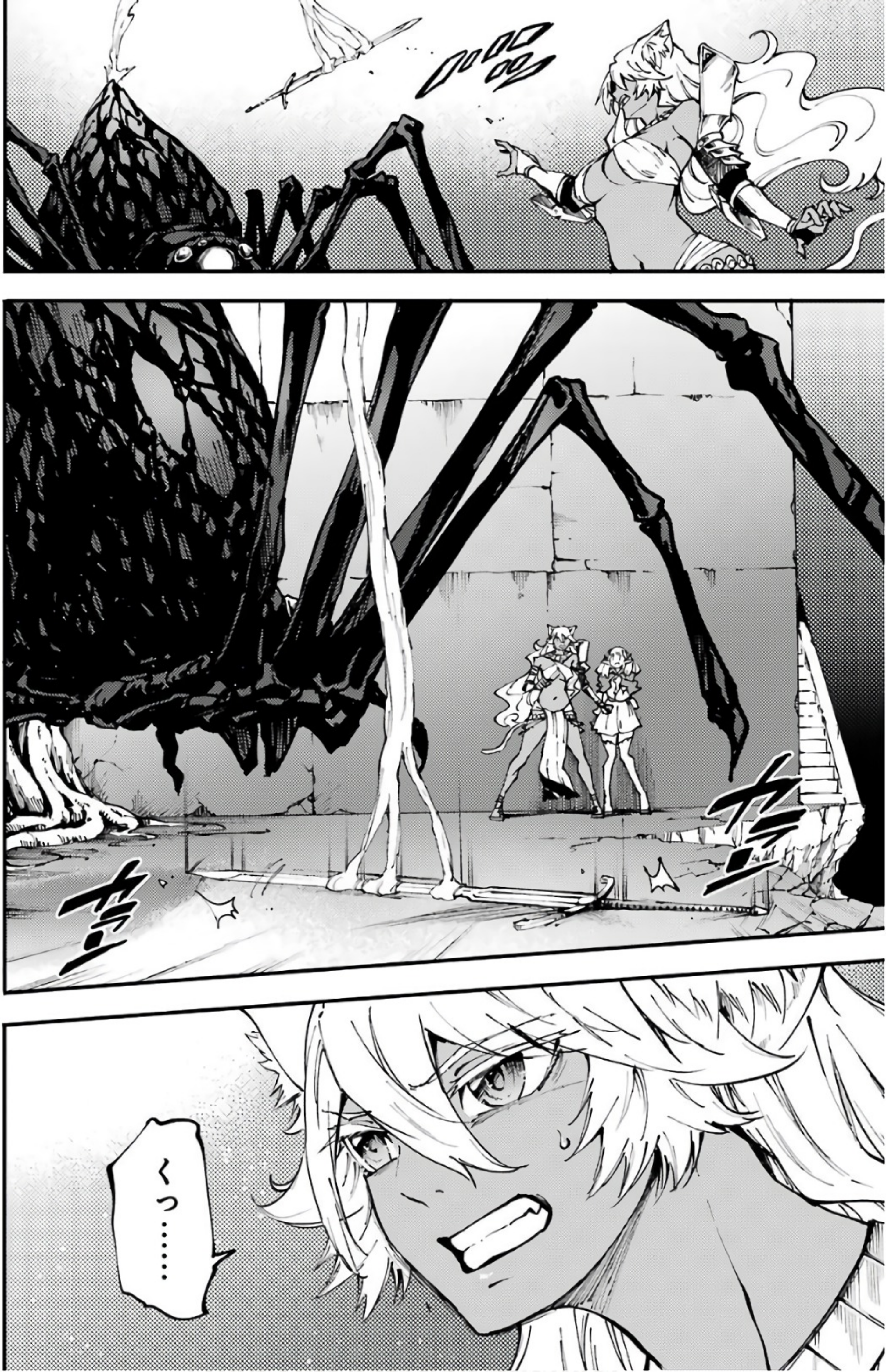



再生…
した…？


なるほど……
ポトッ
やはり小さなモノが集まって巨大なモノに成長していたのか
グラナート様っ!!
ドドド
…くっ!!


ドシャ
ドシャ


厄介だな……
はぁ
はぁ
まるで手応えがない…
チラ
さすがに体力が持たないか………


ゴゴゴゴ
カラン
カラン
くっ……


ロロッ
グラナート！ネフリティス！
その声は…サトウか!!
大丈夫か!?
ぷら～ん
ふたりとも!!


なんでお前たちのほうが先に捕まってるんだ!?
ぷら〜ん
ぷら〜ん
様子を見に来て気付いたらこうなっていた!
既に敵の罠があるとは……迂闊だった!!


アンバル！
糸を焼き切って脱出出来ないのか!?
視界を奪われているからどこに飛ぶかわからない
それでも良ければ撃つ
いやじゃ！絶対やめてくれ!!
わかった！そういうのは最後にしよう！
シュルルルッ


グラナート様!!
ギュッ



グラナート
怪我は無いか?
この格好で言うことか……
ネフリティス!!


ネフリティス
すごい!!
全部吹き飛ばして
おるのじゃ!


……眼に見えない風の魔法は制御が難しいのに
糸があたしたちのほうにも来ないように風の流れを操ってる…
すごい才能……
そのまま攻撃して！
風を一点に集めて切り裂くの！
………


で……できません!!
どうやるんですかぁ!?
今やってることが出来てなんでそれが出来ないの!?
あやつ引き籠もることにかけてだけは天下一品じゃからな
サトウ聞いてくれ…


わたしとネフリティスはここで修業をしていた
魔法の修業だ
魔法？
グラナートが!?
魔力の流れを感じるきっかけは人それぞれだというが……
サトウ今お前に触れている所が熱い
これが…きっとわたしの魔力だ


きっかけさえあれば…
わたしは内に眠る力を爆発させられる
戦士としての確信があるんだ…
だから…
だから…
サトウ…
わたしを燃えたぎらせてくれ


わたしに…
本気の口づけを
…くれないか
ぎ…




妾たちのことも少しは信用してくれてもよかろ？
そうだよね…
わたしがみんなのことをもっと信じなくちゃ
いいよ…
やっちゃって!!!
指輪王！早くするのじゃ！




熱……っ


ドサッ
うわっ燃えて……って
俺はなんともない!?
熱い…
これが…炎の魔力


グラナート様……!!
血が滾る…
体が熱い…
力が湧き上がってくる…
こんな感覚は初めてだ!
わたしの内で炎が燃えている!!!


行くぞ!!!


速い……!!
どういうこと なんだ？
なんで急に あんな力が…!?
たぶん だけど…
魔力で身体を 活性化させて いるんだと思う…
だけどあんなの… 見たこと無い……


ゴオオオ…
サトウ！
剣の熱で再生を阻害してはいるがわたしの力では消し去ることは出来ない
トドメは頼む!!
おう！
任せろ！




でかした！
すごい！えらいぞ！
蛮族のくせに！
うるさい！
お前はいちいち一言余計だな！


そういえばサトウたちはなんでこんな所まで来ていたんだ？
ああ実はアンバルがおかしな魔力の流れがこの辺りにあるって言っていて
もしかしたら書庫の扉に繋がるヒントがあるかもって思ったんだけど…
そのついでにグラナートたちのこともちょっと心配だったからな
そうか…
おかしな魔力の流れはさっきの深淵の魔物のせいかもしれない
恐らく扉には繋がらないけどどうしてあの魔物がここに現れたのかは…
確認する必要がある
わかったわかった
そうだね
じゃが今日はこのくらいにして帰ることにするのじゃ
おかげで助かったよ
ありがとうな
グラナート！


う……うん
こちらこそ……ありがとう
な……なんだ？
グラナートおぬし熱にやられて頭がおかしく……
にゃ――!!
うるさい！わたしは至って正常だ!!


風が、
語りかけます…
ん？

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第44話


みんな聞いて……
なんでもわたしが一番って言うの…もうやめるから！


なんなのじゃ？
いきなり……
指輪の姫だけ親睦会(パジャマパーティー)しよう！
とか言い出したと思うたら……


みんな楽しそうだな……
なんの話してるんだろう……
女の子だけでか……
くるりッ
スタ
スタ
……まぁたまにはそんなこともあるよな
ピクッ
ちらり
駄目だよおにーさん☆
ビクッ
ひょいっ

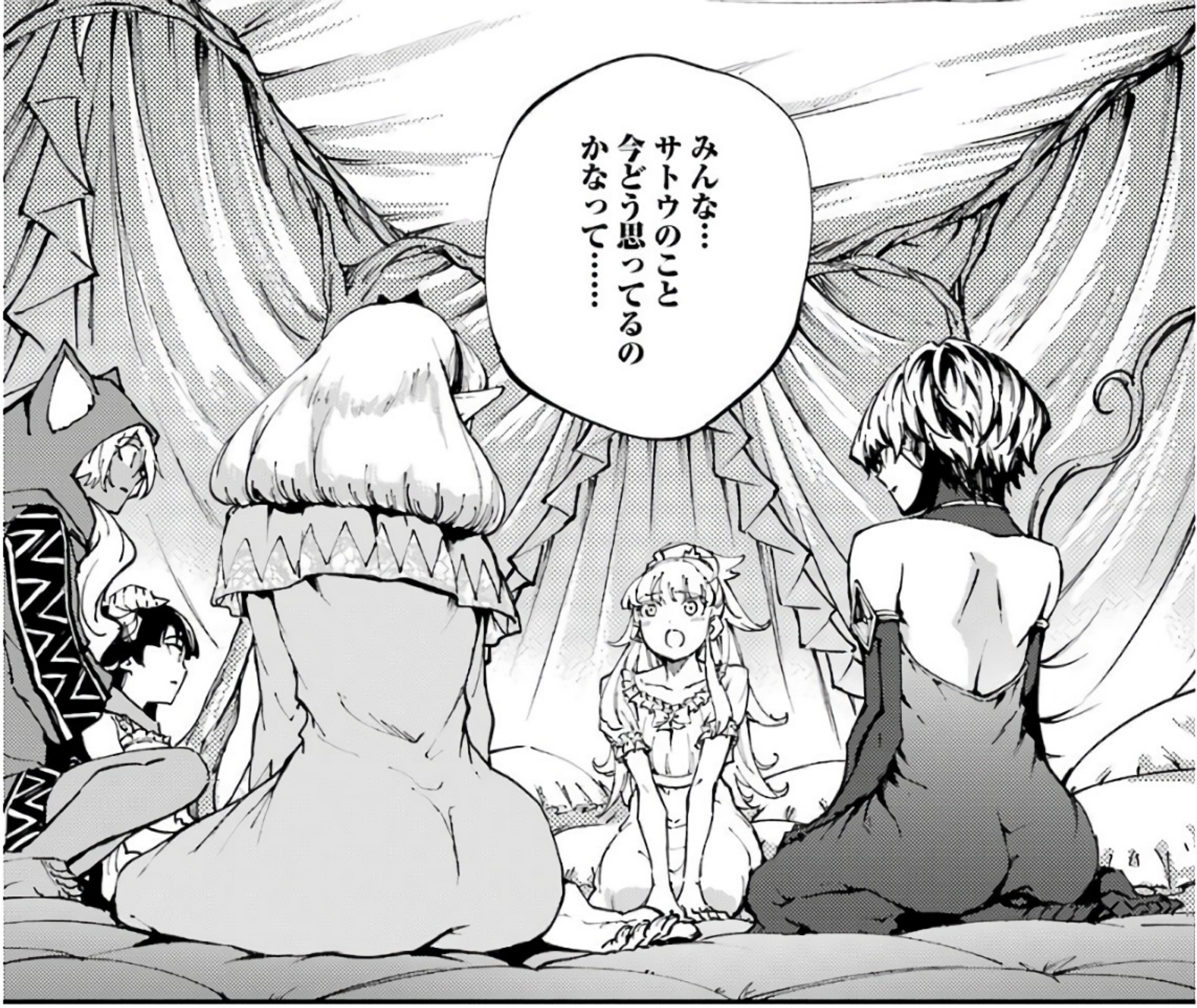

モーリオン！居たのか……
お姉ちゃんにちゃんと見張っといてって頼まれたんだ〜
…ん？
モーリオンはあそこに混じらなくていいのか？
あれは指輪のお姫様の会だからね〜
あたしはお兄さんと一緒で部外者だよ


サクッ
やはりネフリティスの作る菓子は美味いの褒めてつかわそう
ありがとうございますあまり材料がないので出来ることは限られるのですが…
その…
いちおう真面目な話だから！
はいてっ!!
なんじゃなんじゃ…もったいぶらんとはよ言うてみぃ


今日のことで…
気付いたんだ
サトウの足を
引っ張ってるのは
わたし………
みんながサトウと
向き合うことを
わたしが邪魔して
るんだって……！



クリストル様のお気持ち…みなさんもわかっています
サトウ様との十年の思い…
簡単に割って入って許されるものであるはずがありませんから
だからこそ誰も強引な手には出ませんでした
んっ!?
でも 本当に良いんでしょうか?
もう一番じゃなくても良いって……
……
本当はイヤだけど…邪魔をしてる自分はもっとイヤだから…
だから…その……


みんな…
サトウのこと
今どう思ってるの
かなって……




ギギギ…
…やっぱり気になる？
気になるよ！
まさか俺の悪口とかで盛り上がってたり……？？
どうかなー？
お兄さんは結局口を開けばお姉ちゃんのことばっかりだからね
みんなそれなりに不満も溜まってるかも
!!
お兄さんはそろそろ王様らしく振る舞うべきじゃない？
ちょいっ
王たる者分け隔てなく愛を振り撒いてこそだよ！


ずいっ
…というわけで～
トン
まずはあたしに愛を恵んでくださらない？
お前はそもそも指輪の姫じゃないだろ……
ぱっ
だよね～…
冗談だよ！
でもそこまではっきりと拒絶されちゃうとちょっとショックかな～……
なんて


サトウ様は…わたしを外に連れ出してくれたお方です
そんなサトウ様のためにもっとお役に立ちたい……
今はまだ足手まといかもしれませんがいずれは……
本当に必要とされる存在となりたいのです
サトウは…わたしが求める強い男だ
自分を認めさせる力を持った……
最初はこんなヤツが…と思っていたがな
互いに強さを認め合う関係であれば良い……そう思っていたが…
今は……それだけでは足りない自分がいる


妾は今でもサトウなんぞどうとも思っとらんよ
まぁ傍から見ていて退屈はせんがの
指輪王としては少々頼りないが
悪いヤツではなかったというだけで儲けものじゃと思うとる
指輪王はアンバルのすべて
生み出されたときから変わらない
アンバルはずっと指輪王のためにある


ありがと……
ホントに……みんないいコたちだね
だから余計にわたしはサトウを独り占めしなくちゃいけないいって思ってた
誰かがサトウとの間にわたし以上の絆を作ってしまうんじゃないかって…怖かった
だから自分の立場とサトウの好意を利用して……
状況を止めて……


でも もう そういうんじゃダメだって おかしいって わかったんだ
今 彼はもう わたしのためだけに ここにいる わけじゃない
わたしたち みんながサトウの お嫁さんだから


フン
指輪王の悪口大会でも開くのかと思ったら…なんじゃつまらん
みんなして使命感のかけらも無いヤツばかりじゃ
ガァーン
…じゃが妾には年頃の娘たちとこういう場を持つ機会は無かったからの
寝っ転がって菓子を食べてだらだらと話す
…たまには良いものじゃな


あの……クリストル様
本当に…良いんですね？
その…わたしたちの誰かが
サトウ様と関係を進めるようなことがあっても…
愛が揺らぐことはないと
‼
だって順番だって言ったら
みんなが後に続いちゃうってことで…
そう考えたら逆になんにも出来なくなっちゃって……
それなら一番だって示したければ
他の子よりたくさんわたしがサトウにシてあげれば良いんじゃないかなって
!?

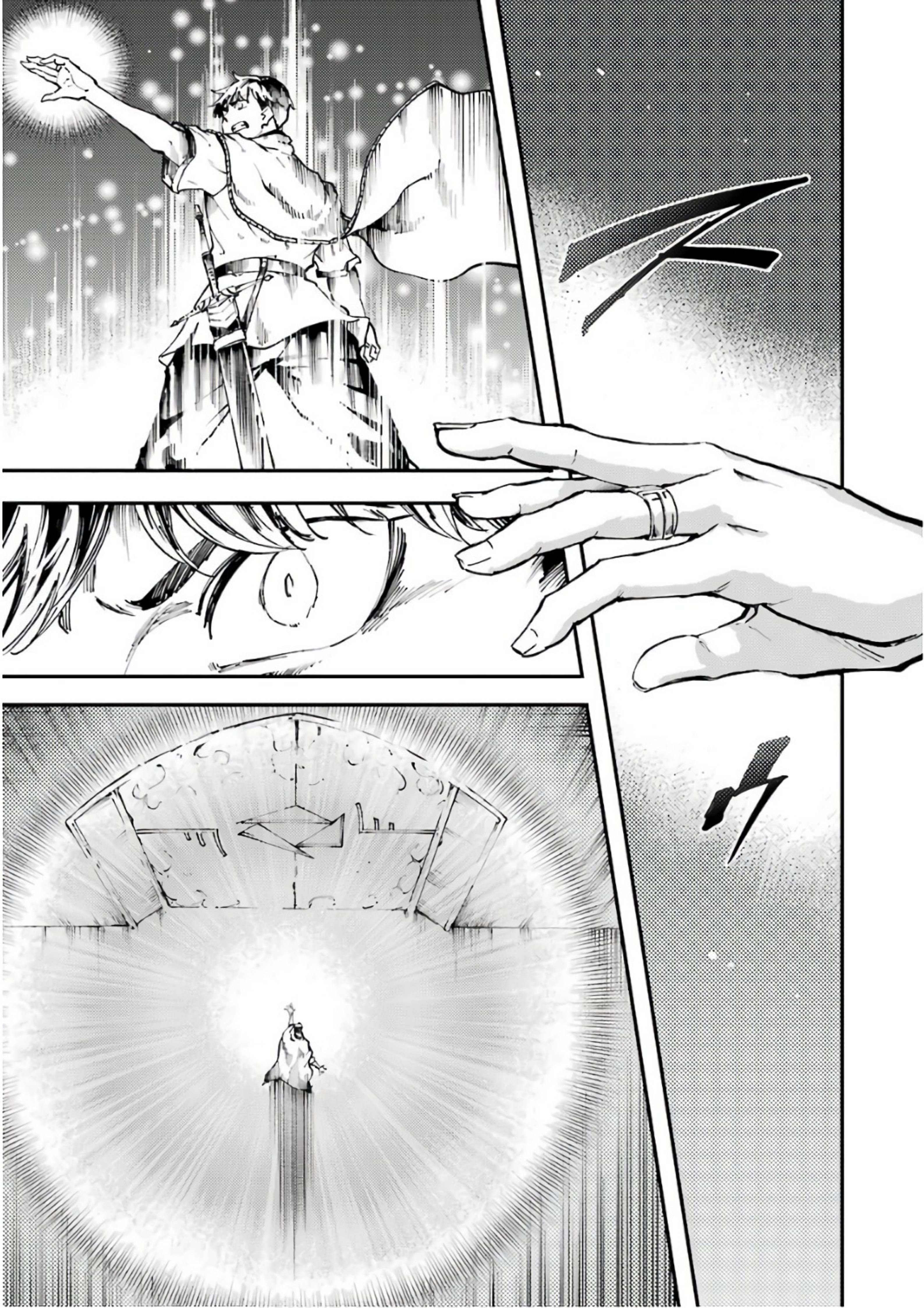

なんというか…クリストル……
お前はやっぱりやらしーヤツだな
なんで!?
とにかく!
これからはみんな公平だから!
…ああ
はい!
…ふんっ

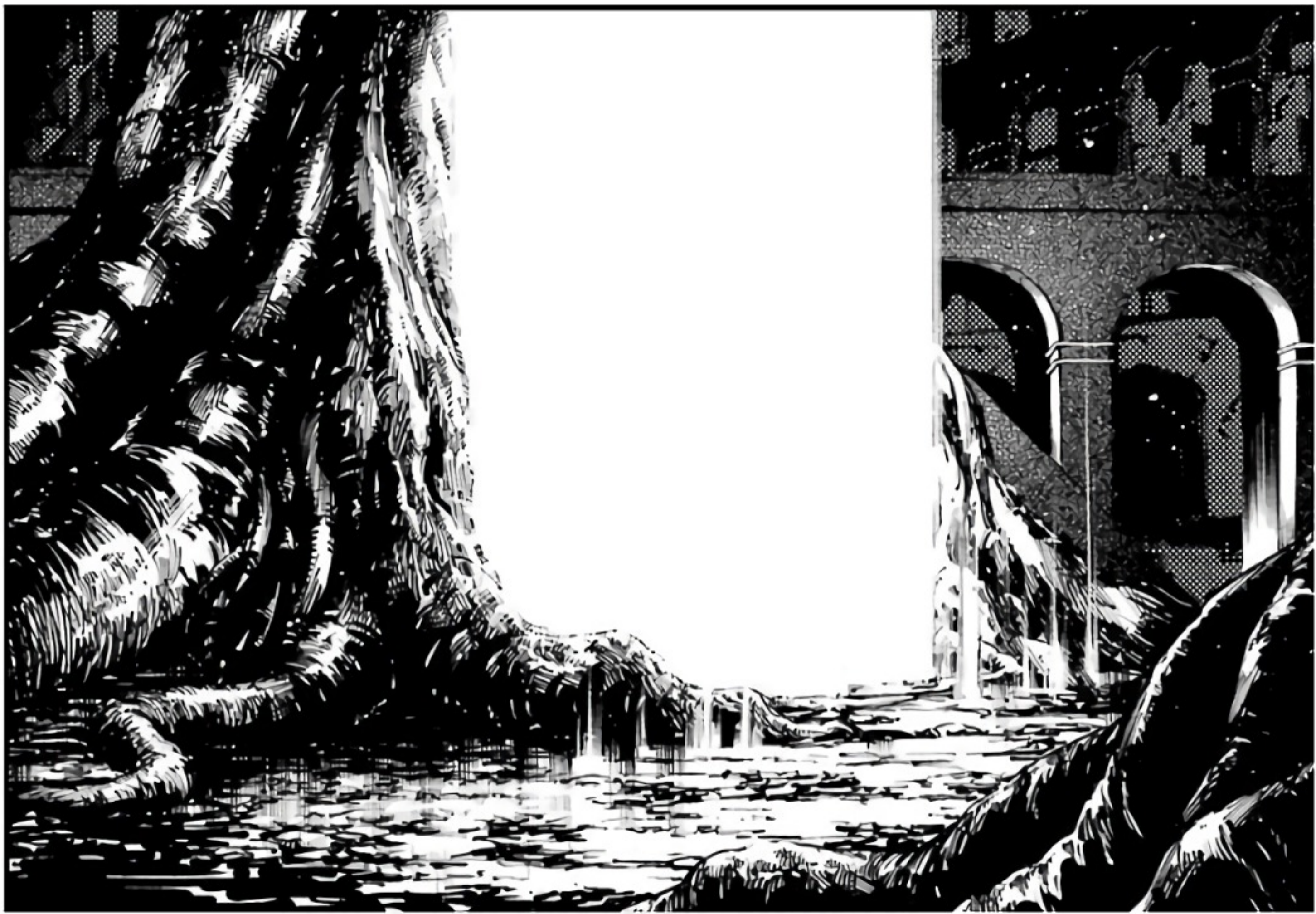

乗り越えよう
…みんなで
あの人となら
…大丈夫だから

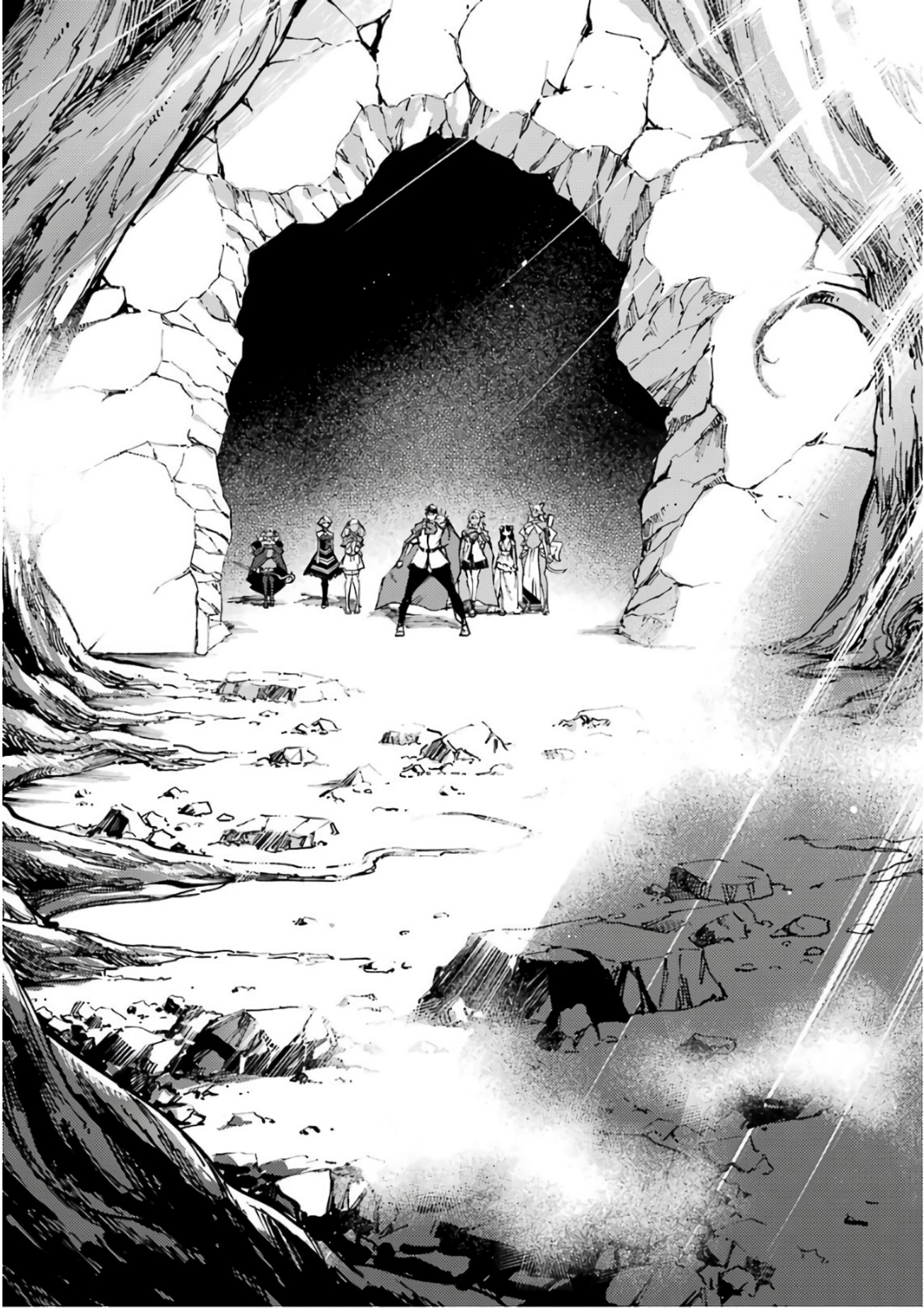

なんだ…??
急に……
指輪の力が
強まって…!?


翌日
昨日のアレはなんだったんだ…?
指輪の力が強まるということは……
お姫様たち同士で…何かしてた?
こやつやらしいことばっかり考えとるのじゃ
…いや決してそういうわけでは……
大事なお話をしていたんですよ


いけそうか？
サトウ
わからないが…
これまでとは全く違う気がする…！
昨日の夜から感じていたんだけど…
これはやっぱりグラナートの魔力の影響なのか？
ふふ…それだけでは無いさ


スッ





やった！
ほっ…


…長老さん！
これでここから出ても良いってことだよな？
……ああ
計画通りではないが仕方あるまい
これだけの力があれば先代の指輪王に見劣りはせんだろう
だが油断はするな
現在の深淵王が過去よりどれだけの力をつけているのかはわからない


そして
忘れるな……
ごくり…
夫婦の営みは
必ずお前に力を
もたらすと
いうことを…！
結局
それかよ!!
まぁ……
いずれな！



お〜い
みんな！
行かない
のか？
あ…ごめん
ちょっと
待って！


姫たち同士の絆か…
私たちのころには思いもよらなかった
これこそが…
新しい力なのかも知れないな


公平ということ、すなわち早い者勝ちなのじゃ
もぐもぐ
!?

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


PRINCESS
第45話


大書庫に巨大な蜘蛛の魔物だと……!?
それはまずいな……
そうなのか？
魔物なんてどこにでも出てくるもんだと……
実際に今まで何度も目の前に送り込まれてきた
魔物は深淵王が魔法で生み出していると考えられている
闇の及ぶ範囲深い森や洞窟では魔物が生まれ易いと云うが……
魔法は自身の知覚出来る範囲でしか使えないはずだ


ましてや大書庫は魔力で守られている
いかに遠見の出来る深淵王とて魔物を送り込むことは簡単では無い
何か足掛かりとなるものがあったのか…
これほどのことが出来るとは……
なんにせよ魔物はここに現れたのだ
傷を負った深淵王もいよいよその力を取り戻しつつあるのかもしれん
急がねばならんな…
…あの長老さま
ひょこっ
ちょっとよろしいですか？
なんだネフリティス
……!!
かわいい……
書庫のことで少し
ご提案があるのですが……


大掃除!?
はい
大きな蜘蛛の魔物が現れたのは
この小さな黒いシミのような魔物が原因のようですから…
ふむ……
確かに…
弱くはあるが深淵の力を感じるな
それが…


こっちにもあるのじゃ!
あそこにも!
うーむ…
あまり出入りの無い場所ゆえに深淵の付け入る隙が出来たのかも知れんな……
ちゃんとお掃除すればしばらくは大丈夫ではないかと!
しかしそうは言うてもこんな小さいもんでも魔物じゃぞ
簡単には行くまい
だいたい集めてしもうたらまたすぐに巨大な魔物に
確かにそうですね…
う〜ん…


はっ
サトウ ちょっと 手伝って!!
…なんじゃ?
じゃあ〜〜〜ん!!
これで 掃除すれば 大丈夫!
パァァァァァ
この光の魔力を 込めたハタキで!
そんなもんで ええのか…?
ザッ
ザッ
キラ キラ
いけた!
まじか
パッ
パッ
パッ
パッ
これをみんなに 配って……


ええくっ……
妾掃除なんてやったことないのじゃ
めんどくさ…
どやっ
わたしが教えてあげるから大丈夫！
こういうの家事得意だから！
主婦力
ならいちばん！
ふ〜ん…
なんじゃおぬし…
今まで自信の無さげな顔ばかりしておったのに
随分と明るくなったもんじゃの


それじゃ
大書庫の大掃除
はじめよっか！
おにいさーん
だいじょうぶ？


ケホ
ケホ
大丈夫か？
わたし
お掃除は
あんまり
したことが
なくって…
それなら
わたしもだ
この旅に
出てからと
いうもの
いろいろな
ことが起こる
本当に…
いろいろ
ですね


花嫁修業などと
ばかばかしい…
と思っていたが
まさかこのわたしが
魔力を扱えるように
なるとは
サトウに触られて
熱くなるのは
発情してるだけだと
思っていた
だがあれは
紛れもなく
魔力の流れを
感じていたのだな！
うむ！
はい……
でもきっと
それだけでは
ないと思います


これが……
愛というものなのだろうか
わたしも自分で思ってるほど大人ではなかったということかな…
ふふっ そうですね
…あ
実際の年齢の話ではないぞ？

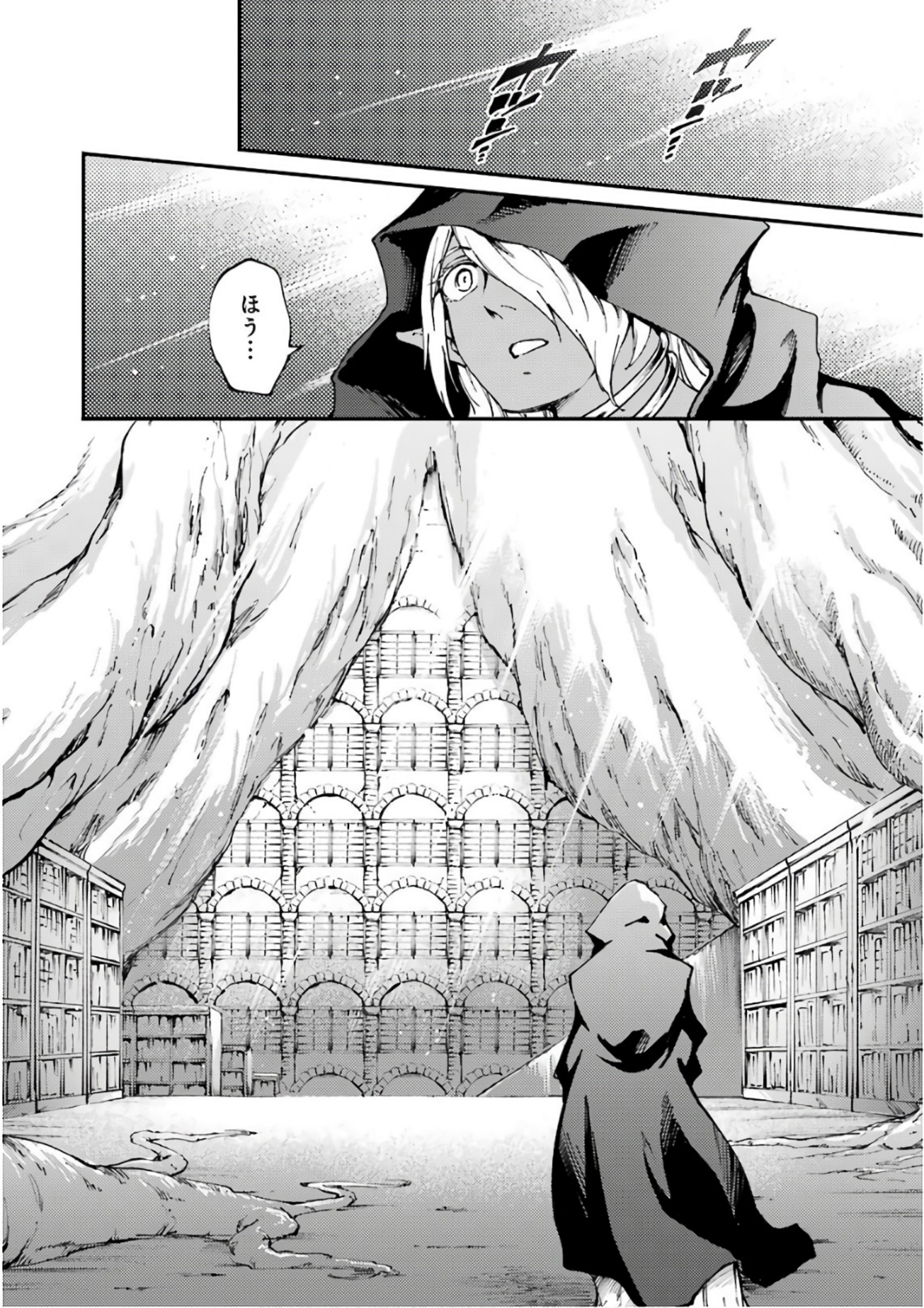

…もうっ！
やっぱり…一番危ないのはネフリティス様だよね……
えっ…なに!?
みんな公平なんでしょ？
だったら作戦立てなきゃだよね…誰とどういう風に戦うのか…
戦うだなんて…そんな……！
甘い！甘いよお姉ちゃん！
みんな強力なライバルってことなんだから！


グラナート様は過激だけどどこか一歩引いている感じ
サバサバしてるっていうか…割り切った大人の関係だよね
ただちょっと…最近様子が変
あれもしかしたらお兄さんに本当に惚れてるんじゃないのかな…
そうなると真面目なお兄さんとしても無下には出来ないかも
ネフリティス様は結構ちゃっかり者だよね
おっとりしてそうだけど周りのことよく見てるし
何かあれば少しでもお兄さんの近くに居ようとしてる
ああいうさりげないのに男の人って弱いんだよね…
サフィール様は……
あんまり恋愛感情ってのとは縁がなさそうな人だけど
友達から恋人に変わるっていうのもよくあることみたいだし
ちょっとしたきっかけがあれば気取らないぶん一気に……なんてね
お姉ちゃんも心当たりあるんじゃない？
アンパル様は元から身も心もあなたのモノ！…って感じだし
お兄さんがもう疲れたーってなっちゃったりしたら
ふっとしたときに転んじゃうかもって感じはある……


むむむ……
さらにそこにあたしも加わるわけでしょ？
なんで⁉
モーリオンは関係なくない⁉
…それは
あたしは指輪の姫じゃないから？
指輪王は指輪のお姫様たちと結婚するっていう決まりはあるけど
さらに他にお嫁さん貰っちゃいけないってわけじゃないし…



油断出来ないね！
お姉ちゃん！
ちょっと待って…それは本気……？
どうかなー？
お兄さーん！あたし何か手伝うことない？
ん？そうだな…
にしし
な…
なんてことを——!!!


ほう…


死を閉じ込めておく書庫……
言われてみれば闇の魔力がはびこるのも納得の場所だ
これからはときに扉を開き風を通すことも必要かもしれんな
すまないな皆の者
成り行きとはいえこのようなことまでさせてしまって
本当にそうじゃ…こんなときに妾たちは何を……
こんなこと指輪の姫である妾たちがせねばならんことなのか!?
たまには良いのではないでしょうか…


そうだよ!!
むしろ花嫁修業感出てきたって感じ!!!
じいさんが言ってたのはこういうことじゃないと思うけどな
…いや
大賢者殿ならこのようなことも指輪の力に繋がると言われることだろう
そうですね アラバスタ様なら……
……
……


…ん?
そうだ!!
じいさんは!?


スマラグディ…すまぬがわしはもうロムカを発たねば……
アラバスタ様には大切な使命がありますからわかっています仕方のないことです
じいさん大丈夫か!?
フラ…
アラバスタ様
いつかこの秘薬をお使いになることどうか考えておいてくださいね♡


サトウくん
エルフには気をつけたほうが良いぞ…
チラ
?
エルフは…
本当に…
本当に………
ガバッ
じいさん…?
じいさーん!!
うふふ




本当にお兄さんに挨拶しないで良かったの？
ええお兄様はきっとまた寂しがってしまいますから…
……？
どうしたの？
…いえなんでもありません
きっと大丈夫です行きましょう


じいさん
次はどこに行くんだ？
帝国の神話遺物庫
帝国か…
マーサではさんざ世話になったの……
マルスさんの国だよな？
彼は今マーサにおるが…案内を頼んでも良かったかもしれんの
いや ほぼ出奔状態のマルスの立場は微妙じゃろう
あまりいい話を聞く国ではないな…
我々猫人にとっても商売相手としてはやりづらい
正規軍がたいそうな規模で傭兵は要らんそうだ


帝国は強大な影響力を持つ人間の国家じゃ
皇帝は知略に優れ冷徹
周囲の国々を次々と取り込んだ様から暴帝と恐れられている
しかしその内政は優れており産業の発達がすさまじい
そも経済無くして軍は支えられん
武力ばかりの暴君というわけでは決して無い
近隣諸国を飲み込んだというのも
多くは自ら庇護下に入ったようなものと聞く
おそらくは当代で最も優れた人間
そして近世にあって最も栄えた国
光の指輪を継ぐ者としてその王子が選ばれたのももっともなことじゃのう
マルスさんのお兄さんといい…
お堅くて怖い国かと思ってたけどちゃんとしてるんだな


あれが帝国か…



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第46話


あれが帝国か…
すごい規模の城壁だな……
さすがは最大の軍事力を誇る帝国といったところかの
…ん？
なんだ？こっち…？
案内でもしてくれてるのか？
ドォーー…


ビュオオッ
じいさん……これ
攻撃されてる!?
怪鳥に告ぐ！今のは威嚇だ！
言葉がわかるならば速やかに城壁の外に降りよ
さもなくば次は当てる！
!!


ノカナティカにも城壁はあったけど
こっちはさらに大きいな……
しかしなんとも言えぬ臭いのじゃ
そうですか?
空気が腐っておる
風に土の魔素が多く混ざっている
あの煙突…

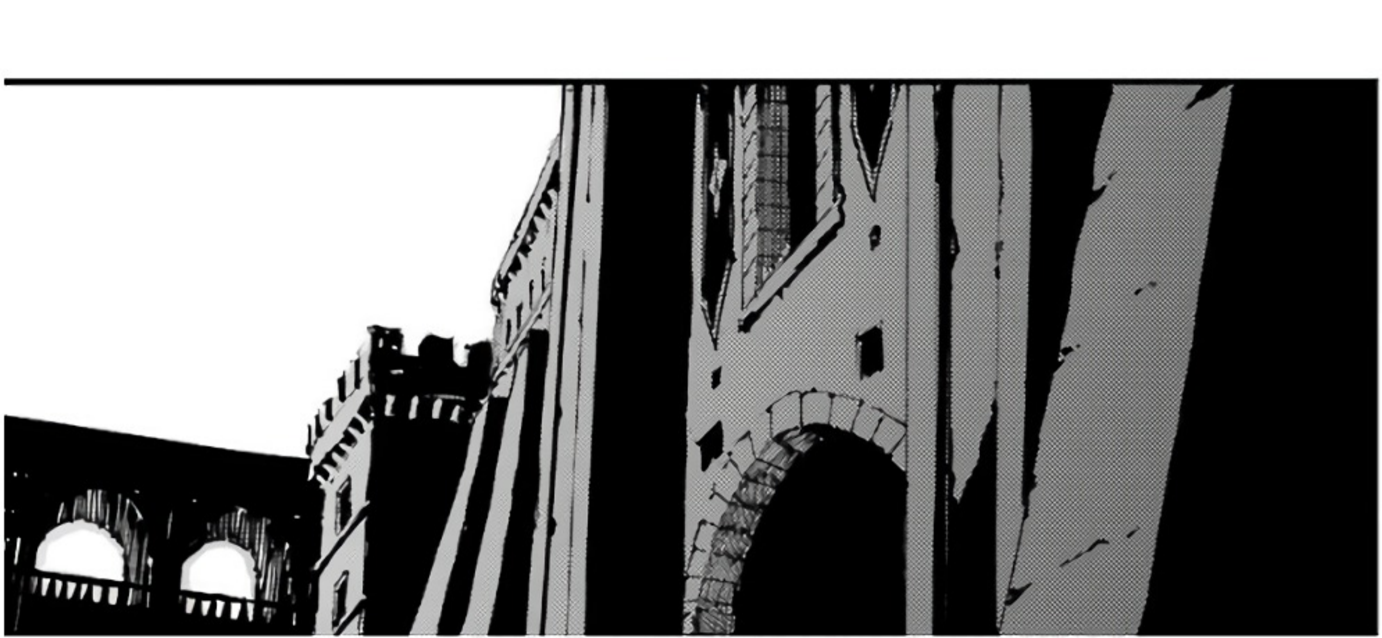

あれは帝国が誇る工房だ
深淵との戦いのために皇帝陛下は準備を進めてこられた
ザッ
武器を蓄え
鎧を打ち
民を養い
兵を育てる
その数十年の成果がこの帝都だ
帝国兵士の武装は他国より10年先んじていると自負している
おお…スリュダー将軍！久々にお目にかかる
指輪王殿 再び貴殿に見えることが出来ようとは
手荒な迎えになってしまったことを詫びよう
深淵との戦いに備えるならば当然必要なことでありましょう
帝国第一王子直々のお迎え痛み入ります


ここに来られたということは
目的は神話遺物庫……
かの神器が目的とお見受けする
左様
深淵王との決戦に備えさらなる力を得ねばならぬのです
ぜひ帝国の力お貸し願いたい
承知した
しかしかの場所は皇帝の直轄
私ではどうにもならぬ
皇帝と直接交渉していただくしかない
…案内しよう


スリュダー様だ！
見ろ
あの勇ましい
お姿を……
帝国の誇りだ！
ざわ…
ざわ… ざわ…
珍しく客人を
お連れになって
いるが……
あの後ろの
青年は…？
ざわ…
ざわ…
いや
知らんが……
ざわ…
ざわ…
あの竜人の女性は
マーサの
サフィール姫で
猫人は
ニーダキッタの
グラナート姫
じゃないか？
ざわ…
見たことが
ある
ざわ…
ざわ…
指輪の国の
姫か……


つまり彼が指輪王ということか!?
マルス王子から指輪を奪い取ったとかいう…?
いや王子が哀れんで恵んでやったそうだ
見てみろなんとも頼りなげな顔じゃないか
やはり皇帝陛下の言われることは正しかったのかもしれないな…
ざわ ざわ…
ざわ…
…なんかあんまり人気ないね
他の所みたくめちゃくちゃ歓迎されるのも困りもんだけど…
俺じゃなくてマルスさんなら反応も違ったんだろうな
…もう!
そういうこと言わない!
…ごめん!
指輪王が尻に敷かれているぞ…
伝説を敷くすごい尻だ……!








来たか…
随分と
遅かったな
指輪王
帝国の
神話遺物庫には
かの神器——
かつての
指輪王の剣が…
歴史に埋もれた
伝説の一振りが
収められていると
聞き及びます
世界を
守るため…
深淵を
打ち払うため
今こそ指輪を
継ぎし者の手に
お返し願いたい


ならぬ
遺物庫へ……
通すわけにはいかぬ
なんだって……



指輪のみでは憂いが消えず
次の希望にまた縋ろうというのだろう
…希望はそれが潰えるとき絶望に変わるものだ
指輪王よお前は深淵王に一撃を与えはした
されどその身は一つ
魔物の軍勢すべての相手は出来るまい
現に北方より迫る魔物を押しとどめているのは我が帝国兵たちだ
民を束ね戦うことこそが我々が生き残るただ一つの道
神話でも希望でもなく
現実を見据えねば滅びるのみ…
でもあなただって…
マルスさんに指輪を継がせようとしてたじゃないか
指輪の力は必要なんじゃないのか?
迷信は人心を乱す
手元に置き御するためにすぎん


何より……
!!
知ってるのか……
指輪に選ばれたとてそれは呪われておるのだろう？
真理に近づく者ならば誰もが知ることよ
そうであろう？アラバスタ……
その指輪……
それが一つになった指輪か


なんなら今ここで
腕ごと切り落としてやっても構わんのだぞ
交わらぬ道なれど行き着く先は同じやもしれん
それ故にそなたらを自由にさせてやっているのだ
もう話すことはない
去ね(い)


だ……
ダメだった
そして
怖かった…
まあこうして
宿も手配して
くれたんじゃ
それほど
邪険に扱われて
おるわけでも
あるまい
民間の宿で
すまないが
しばらくは
自由に使って
もらってかまわん
ペこり
…弟が
世話になった
せめてもの
礼をさせてくれ


……でどうするのじゃ？
このまますごすごと引き下がるわけにもいくまい
相変わらずノープランだな！
何か手を考えねば…しばし時間が必要じゃのう
それよりじいさん…
指輪王の剣があるって話本当なのか？
そんな物があるならどうして先に……
…いや
わしも噂を聞いただけでどんなもんかはさっぱり知らん
なんだって!?
アラバスタよ……さすがに無計画がすぎるのではないか？
そんないい加減なものを頼りにここまで来たのか？
何をそんなに焦っておる……おぬしらしくもない


……全く根拠のない話ではない
帝国が遺物を収集するのは力の集約を図るためとも言われておる
指輪王の剣でなくても役立つ物はあるかもしれん
それにしたって…
確かな手段ではないことはわしも理解しておるが
少しでも可能性があるならば……
出来る限りのことはしておきたいのじゃ
あのとき——
サトウくんの指輪の力は完全には通じなかった
わし自身も運よく助かったにすぎん……


次はもう無いという心構えで挑まねばならん
父上はあのように仰られたが……
我が軍はかなりの苦戦を強いられている
現在の均衡した状態が長く続くとは限らん
本当は…
何にでも縋りたいところなのだ


…ねぇ
あと目的地に挙がってたのは——
魔導の尖塔
ね
魔法使いの修業の地
あたしがずっと居た場所
どうした？
ヒメ……


わたし…
!!
魔導の尖塔に
行ってくる
二手(ふたて)に
分かれよう
サトウが
指輪王の剣を
探してる間
わたしは
魔法をもっと
使えるようになる
ヒメ…!?


今 時間を無駄には出来ないよ
うむ…… 傷ついた深淵王が再び動き出す日はそう遠くはなかろう
確かに時間は限られておる
しかしサトウくんと離れるのは……
おじいちゃん……
わたしも出来る限りのことはしておきたい
はぁ



…わかった
お姉ちゃんにはあたしがついてくよ
あと修業が必要なのは…
ネフリティス様と…
グラナート様かな
あとの二人は残ってお兄さんに協力してあげて


サトウ…
わたしも
強くならなきゃダメだと思うんだ
ヒメ…
…そうだな



・・・一緒に頑張ろう


こっちを終わらせたら
すぐに駆けつけるから
わたしのほうが先に
終わっちゃうかも


じゃ
行ってくるね
帝国と魔導の尖塔はそれほど離れておらん
何かあれば…モーリオンからすぐに報せがあるじゃろう


まさかあのクリストルが
あんなことを言いだすとはの

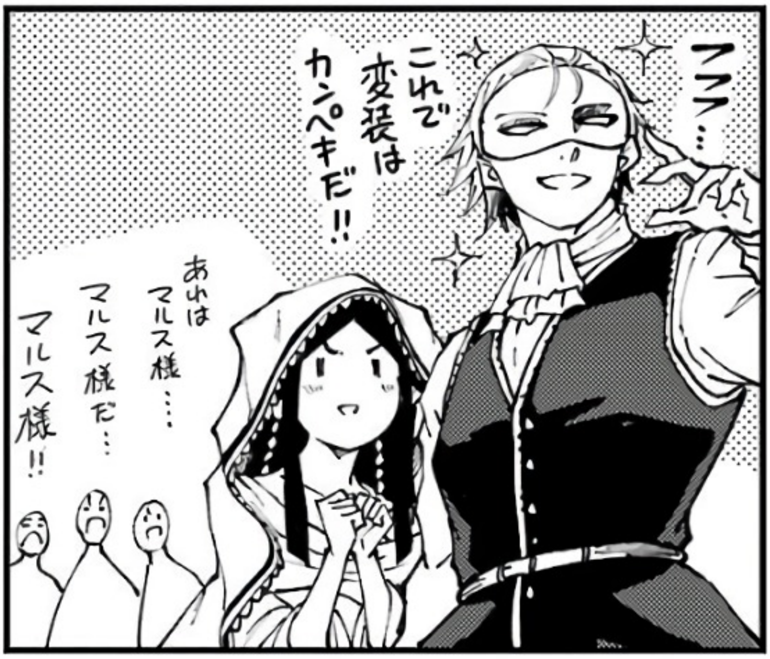

お姉ちゃん本当に良かったの？
なんかわたし…
このままだとサトウに置いてかれちゃう気がして
お姉ちゃんのためにこの世界に来たお兄さんなんだから
心配ないと思うけど
ううん…
わたしはサトウのパートナーなんだから



俺たちは俺たちで
頑張ろう…
クリストルに先を越されんようにせんとな！
まずは地道に情報収集から…
う〜ん……
めんどくさいのじゃ…
お困りのようだねサトウくん
!?


あなたは……
マルスさん!!


マルス…!
おぬし帝国内におったのか!
ええ
声をかけるのが今になってしまって申し訳ない
立場上あまり目立つわけにはいかないですから
話はだいたい聞かせてもらいました
神話遺物庫へは僕が案内しましょう
結婚指輪物語8　おわり


フフフ…
これで変装はカンペキだ!!
あれはマルス様…
マルス様だ…
マルス様!!

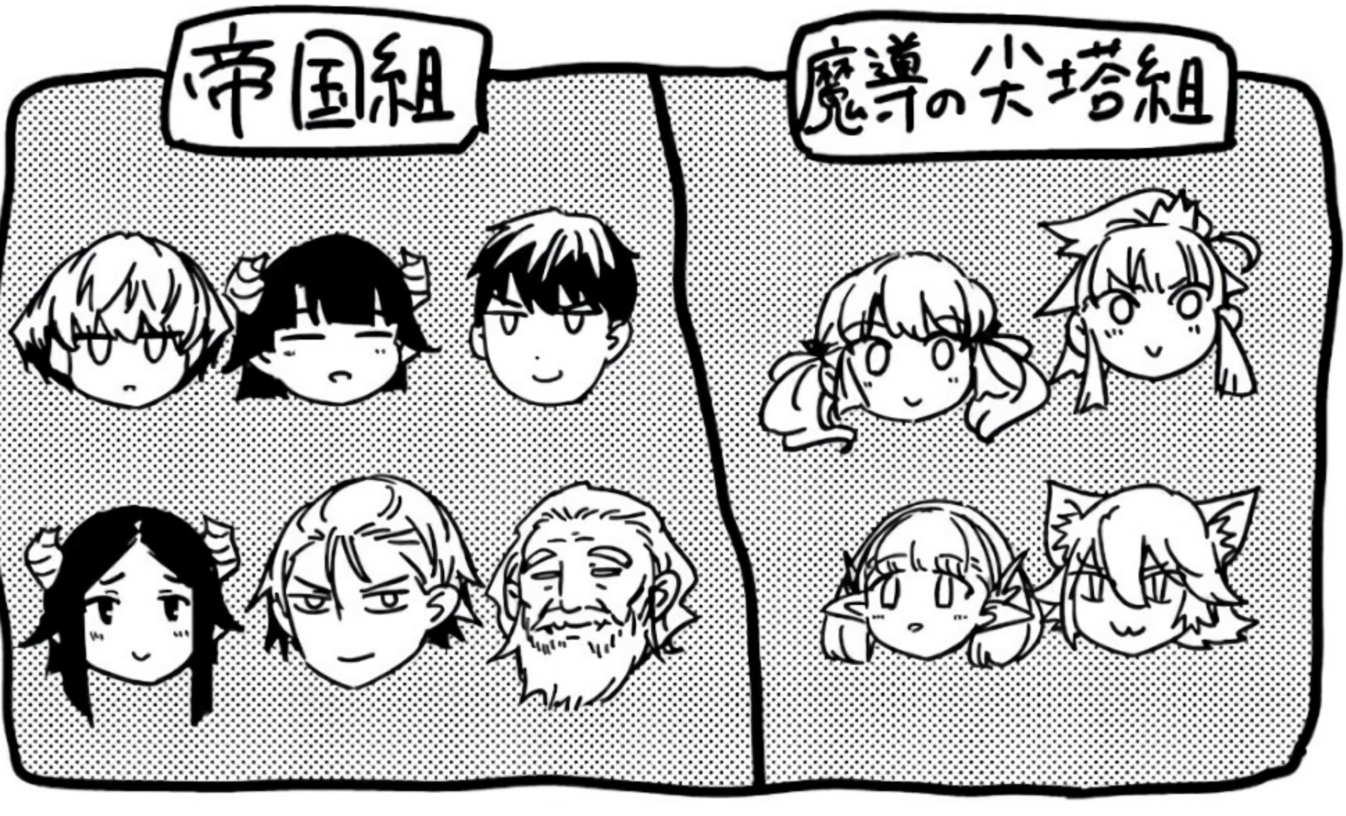
結婚指輪物語8巻
あとがきページ

やっと大書庫編が終わりました。
だいたいのお話は1冊で区切り良く…と行きたい所なんですが、
このシチュエーションならこういうことも出来るな…と
欲張り始めると長くなってしまいます。
色々なことをしたので描いてる分には楽しかったんですが、
いかがでしたでしょうか。

次からは大所帯になりすぎた指輪王一行を二手に分けてお話を進めていきます。
サトウの側にはサフィールとアンバルが残るので、
この二人が好きな方には特に楽しんでいただけるんじゃないかと!?
もちろんヒメとネフリティスとグラナート（とモーリオン）にも出番はありますよ！
今度はしっかりお話が進むと良いですね。

それでは次の9巻もお楽しみに！

めいびい



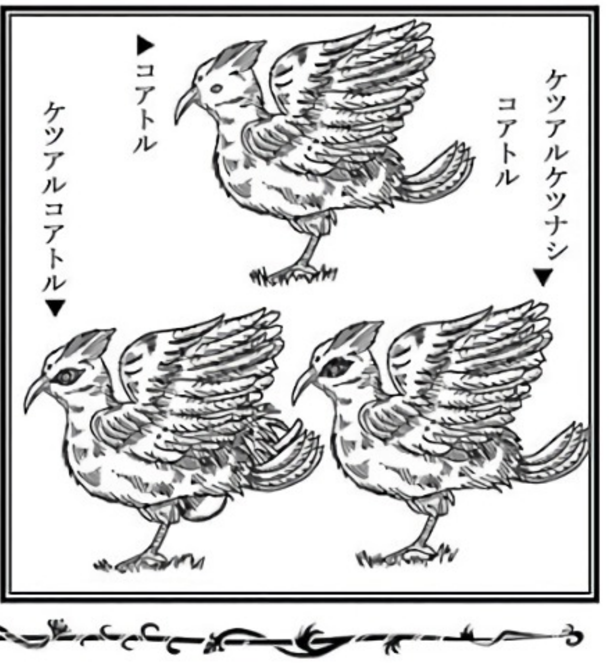
アーヌルス博物誌

神鳥はロムカ周囲に広がる大森林をすみかとする，巨大な鳥である．かつては数百羽の神鳥が壮麗な群れをなし空を埋めたと伝わっているが，エルフによって家畜化され野生のものはほとんど残っていないとされる．さらに深淵王との戦いを経て減った数は戻らず，今はわずか数十羽が残るのみである．

一般にロムカの神鳥と呼ばれるが，これは他の種族がそう呼ぶのにエルフたちも倣ったに過ぎない．本来エルフたちはケツアルケツナシコアトルと呼んでいたようだ．「コアトル」という巨鳥の仲間に巨大な臀部を持つ「ケツアルコアトル」という種がおり，それとほぼ同じ特徴を持ちながら臀部の小さな種を「ケツアルケツナシコアトル」と名付けたという非常にややこしい経緯を持つ．ただしそもそものコアトルの名が何を意味するのかがわかっておらず，さらにはコアトル自体が実在を疑問視されている幻の鳥である．

謎の多い神鳥だが，その存在はエルフにとってなくてはならない身近なものである．多くの荷を乗せたうえで易々と飛び上がり，諸国を訪問するエルフたちの足となっているのだ．ロムカを離れたがらない多くのエルフにとって長距離を素早く移動できる神鳥は重宝されており，美しい鳥に乗って現れ素早く去るその姿はエルフの神秘性を高めるのに一役買っているのは間違いないだろう．

ロムカが風の壁にとざされている間に神鳥の多くは運動不足で肥え太り，まともに飛べるものは一握りしか残っていないと噂されている．しかし神鳥はそもそも巨体に似つかわしくない軽やかな飛行をこなすため，賢者の間ではおそらく風の魔素を操る力を持っているのだろうと考えられている．その能力と神々しさから風の四聖獣と同一視され，騎乗用の家畜として見ているエルフより人間のあいだで信仰が篤い．



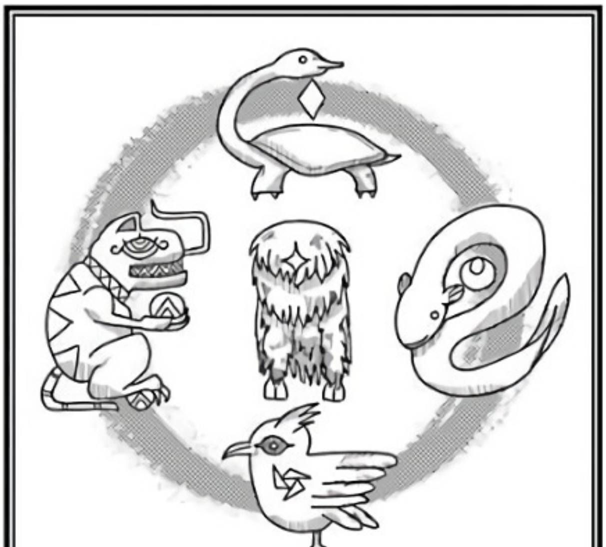
アーヌルス博物誌

四聖獣信仰は指輪王信仰ほどではないものの世界各地に見られる普遍的なものである．四聖獣は指輪持つ者たちとつねに共にある聖なる獣とも，指輪とは関係の無い各種族の守護獣とも言われる．知能は極めて高く力を貸す相手を見極めるとされ，その姿は時に獣であり，時に目に見えぬ精霊として人々を導くとされる．指輪王信仰のように大きな祭りなどは行われず，あくまでひそやかに日々の加護を祈る穏やかな信仰である．

四聖獣の姿形には様々な伝承がある．風の聖獣はロムカの神鳥，火の聖獣は猫人の獣神でもある猫，水の聖獣はもちろん竜である．土の聖獣はドワーフたちが消えて久しく伝承に伝え聞くのみであるが，蛇のような首を持つ亀であったとされている．つまり，沼や河川に住むスッポンであることは間違いないだろう．

鳥，猫，竜，スッポン．この四つの獣が四聖獣とされ，方位や季節，さらには四魔素とも関連づけて考えられる．風の鳥，火の猫，水の竜，土のスッポンなどである．これには異説も存在し，火の赤鳥，金の白猫，木の青竜，水のスッポンブラックとするものである．ただその由縁はわかっておらず，まったく別の文化圏よりもたらされた信仰が変化したものと考えられている．

光の指輪を受けつぐ人間たちの守護獣は存在しないとされている．これは光の指輪がほかの指輪と並び立たない特殊なものであり，人間こそが全ての種族の守護者だからと説明される事が多い．しかし人に暖かい衣服を与え，その食を支える美味なる聖獣を我々は知っている．
そう，ノカナティカの名産，益獣タオルケットこそが人間の守護聖獣と言えるのではないだろうか．




NEXT
〃指輪王の剣〃を求め
帝都深く潜入するサトウたち。
そこで待ち受けるものは……!?
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第9巻 乞うご期待!!

デジタル版　Ver.1.00

BG COMICS

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑧

著者／めいびい

2019年 7 月 9 日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志・長岡徹郎
装幀　阿閉高尚
初出／月刊ビッグガンガン2018 Vol.10〜2019 Vol.01、Vol.03〜Vol.05

EXTRA CONTENTS ‼ カバー折り返し

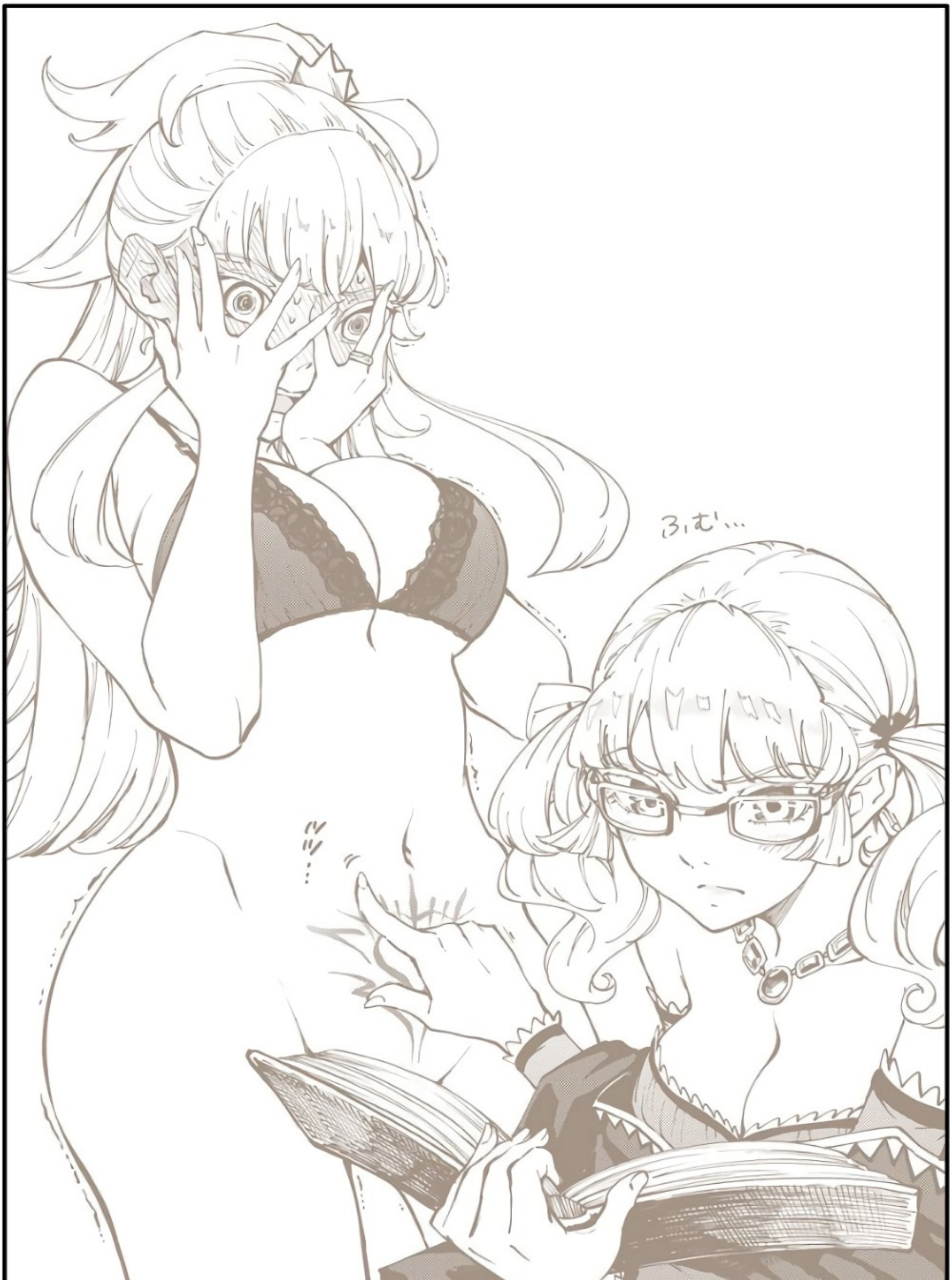


めいびい

MAYBE

隻狼…良いゲームだったぜ……。

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録



※コミックス発売時の表紙 表を収録

Tales of Wedding Rings

8

Presented by

MAYBE

BIG GANGAN COMICS

SQUARE ENIX.

※コミックス発売時の表紙 裏を収録



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

エルフの大書庫に閉じ込められたサトウは、
そのまま嫁5人とのまったり新婚生活を満喫してしまう。
しかしそこに深淵の魔物が現れて…？
そして“花嫁修業”の舞台は帝国へ。
さらなる試練がサトウと姫達を待ち受ける――!!

8

Presented by
MAYBE

※コミックス発売時のカバー裏を収録